

題 目	東灘区呉田地区のまちづくりと防災に関する住民アンケートの分析		
氏 名	藤井 康寛	(学籍番号 06V113)	指導教員 吉川 耕司

1. 研究の目的

神戸市東灘区呉田地区では、平成 19 年にまちづくり協定が締結され、その後、まちづくりの会により活発な活動が行われており、筆者の所属する研究室でも積極的な支援活動を行ってきた。そうした中、今年度には、まちづくり構想の見直しを念頭に、まちづくりと防災に関するアンケート調査が実施された。

本研究では、このアンケート結果から、個人属性・世帯属性・居住地と、まちづくり及び防災に関わる住民の意識を分析する。

2. 分析方法

分析に際しては、まず住民の属性による意識の違いについて仮説をたて、それを検証するというアプローチをとることにした。

具体的には、この地域の若者は「交通」に、中・高年は「祭り」に、老年は「防災」に、それぞれ問題意識を持つとともに、地域の発展にとって検討が必要な項目であるという仮説である。

なお、本研究ではさらに、年齢や世帯構成をミックスした「ライフステージ」属性への分類や、居住開始年数(震災後と震災前)、国道 43 号線の北側・南側といった居住地の違いによるクロス集計も試みているが、ここでは前述の年齢構成別の分析結果について説明を行う。

3. アンケートの概要

アンケートの対象は、呉田地区の住民及び呉田地区で働く方であり、調査期間は平成 21 年 9～10 月である。この期間に、呉田地区まちづくりの会の役員が調査員になり、調査票を地区の全世帯に配布・回収する方法を取った。合計 1200 部を配布し 877 部が回収され、有効部数は 866 部であった。すなわち回収率は 7 割以上であり、十分なサンプル数が得られたと考えられる。

4. アンケートの内容

アンケートの内容は、①回答者属性、②まちづくりに関する意向、③防災に関する意向、の大きく3つで構成される。このうち、まちづくりの意向に関しては、まちづくり協定が描くまちづくり構想は現在、特に問題なく進んでいるようだが、さらにより良いまちづくりが課題とされたことをふまえ、

- ・ 美しいまち
- ・ 安全で住みよいまち
- ・ 歴史と文化を継承し連携交流するまち

の3つの目標について、重要と思われる取り組みを答える形となっている。以下では、上記に対応した問4から問6について、回答の選択肢ごとの構成比をもとに分析を行う。

5. 分析結果

年齢構成別の分析結果について報告する。ここでは、問 4・5・6 の年齢構成別の分析結果について示す。

図 1 に示すとおり、問 4 では、老年の選択肢 5 が他の世代に比べて高い。図 2 に示す問 5 は、若者の選択肢 1 が他の世代に比べ高い。また図 3 に示す問 6 は、老年の選択肢 1 が他の世代に比べ低く、選択肢 5 が他の世代に比べ高いという結果になった。

6. おわりに

住民の求めるまちづくりの方向性は、生活マナー改善に向けた取り組みや、歩道のバリアフリー化、さらには歴史と文化の継承であることがアンケート分析より明らかになった。

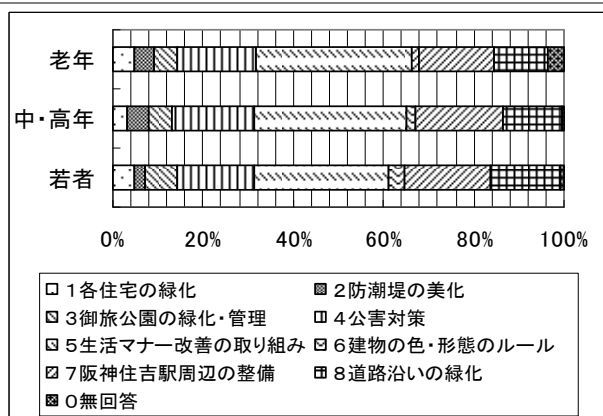


図1 問4の年齢別クロス集計グラフ

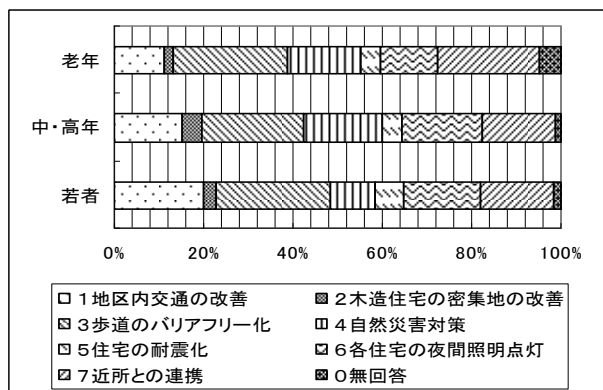


図2 問5の年齢別クロス集計グラフ

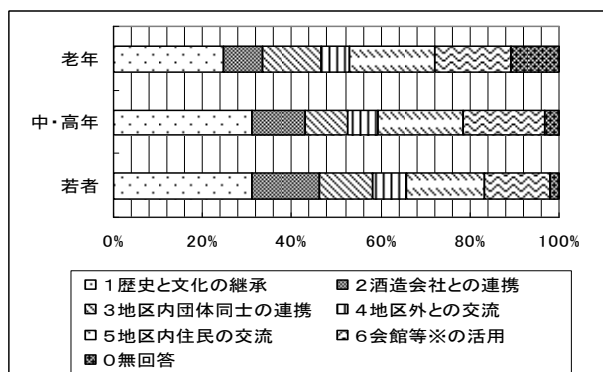


図3 問6の年齢別クロス集計グラフ

また仮説の検証に関しては、問 5 の若者の選択肢 1 の集計値が他の世代に比べて多い。このことから若者は交通に問題意識を持つという仮説は妥当であることが分かった。しかしながら、中高年が「祭り」を重視しているとの仮説については問 6 の選択肢 1 が、老年層が「防災」を重視しているとの仮説に関しては問 5 の選択肢 1 が、それぞれ他の世代に比べ多くなれば妥当とみなせるものの、実際にはそうした傾向は今回のクロス集計からは見られなかった。

多様な年齢層が居住する実際のまちにおいて、今後の発展方向や重視すべき点を定めるには、それぞれの世代に納得される方策が必要である。地域や年齢層に分け、それぞれの考え方の組み合わせとしての地域全体の意識構造を把握することは重要であり、こうした観点からの分析は、今後も続けられることが必要であろう。